

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2017 年度は委員会を 4 回開催した。各回の主な審議事項は下記のとおりである。

- 第 1 回(6 月 5 日) ① 2017 年度図書館各種委員会委員構成について
② 2017 年度図書館自己点検・評価(2016 年度報告書)について
③ 明治大学図書館所蔵資料の調査・研究について
④ 中野図書館基本コンセプト検討 WG の設置について
- 第 2 回(7 月 3 日) ① 2018 年度教育・研究に関する年度計画書について
② 2018 年契約変更予定電子ジャーナルパッケージについて
③ 明治大学図書館「第 8 回書評コンテスト」応募要領について
- 第 3 回(10 月 28 日) ① 2018 年度予定経費要求について
② 定年退職教員の貸出冊数等について
③ 2018 年 Springer 契約タイトルについて
- 第 4 回(2 月 28 日) ① 2018 年度予算について
② 2018 年度図書予算配分について
③ 2018 年度図書館各種資料申込みについて
④ サイエンス・ダイレクト PPV の運用変更について
⑤ 図書館規程の一部改正について
⑥ 明治大学図書館書評コンテスト選考部会内規の改正について

2.2 収書部会

2017 年度の『収書部会』の開催はなかった。

2.3 特別資料選定分科会

図書館長宛「2017 年度教育研究振興基金事業(教育事業)助成申請について(願い)」の提出を受け、11 月 20 日に第 1 回選定分科会を開催、審議を行った。慎重に審議・選定を行った結果、選定を見送ることとした。

2.4 電子資料分科会

2017 年度は以下のとおり分科会を開催した。

- 第 1 回(6 月 26 日) : 新規バックナンバーの選定。新規研究用新聞・雑誌、電子資料の受付停止について。Springer 社電子ジャーナルパッケージ契約見直し提案の検討。
- 第 2 回(7 月 19 日) : Springer 社電子ジャーナル個別契約タイトルに関する意向調査について検討。
- 第 3 回(10 月 12 日) : Springer 社電子ジャーナル個別契約タイトル検討。新規バックナンバーの選定。
- 第 4 回(2 月 21 日) : 新規学習用雑誌・バックナンバーの選定。Science Direct PPV の運用変更について検討。データベース等契約変更・媒体変更について。

2017 年度は、Elsevier (2014- 個別タイトル契約)、Wiley (2017- 個別タイトル契約) に引き続き、Springer 社電子ジャーナルの契約見直しを行い、夏季休業期間中の意向調査実施結果や各キャンパスでの説明会もふまえ 2018 年からの個別契約タイトルの検討を進め、24 誌が選定された(当初選定タイトルのうち 1 誌はその後移管し他社分として契約)。

新規購入申請に関しては、研究用雑誌・新聞、電子資料については上記の契約見直しに伴い昨年度に引き続き受付停止措置が承認された。学習用雑誌・バックナンバーについては選定が行われ、学習用新聞・雑誌 3 誌(和雑誌)、バックナンバー 9 誌(和・洋)が新規契約・購入となった(p.34「9.1 資料購入一覧」参照)。

雑誌・電子資料費については、前年度からデジタル資料費が大幅に削減された上、外国語雑誌の価格高騰の継続と為替変動による影響は大きく、同規模の契約を維持するのが非常に困難な状況となり、大型電子ジャー

ナルパッケージの見直しを行った。今後、図書館全体の予算配分の見直し、媒体変更に伴う業務体制の整備などへの取組みも見据えていく必要がある。

2.5 図書館基礎資料選定分科会

2017年12月5日に選定委員会を開催し、さらにその後2度のメールによる審議の結果、選定候補から購入資料を決定した。購入内容はp.34「9.1(2) 図書館基礎資料購入一覧」のとおり。また、同日委員会にて、図書館基礎継続資料の購入中止について審議し、中止または電子媒体への移行する資料を決定した。

2.6 アフリカ文庫選定分科会

2015年度中に『アフリカ文庫』を中央図書館から和泉図書館へ移管した。2017年度の分科会の開催はなかったが、継続購入図書、寄贈図書等の受入れを行った。2017年度図書予算は48万円である。

2.7 蘆田文庫選定分科会

例年のとおり、定例の分科会の開催は最小限にとどめ、相互の連絡による機動的な選定活動を行った。2017年度は購入候補資料と予算が折り合わず購入を見送った。

2.8 江戸文藝文庫選定分科会

2017年度は分科会を招集せず、メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。

その結果、全2点の資料を選定し購入した。購入資料は以下のとおりである。

- 雅佛小夜嵐 / 蘇生禅師関 . -- 坐禪窟蔵, [明和頃].
- 人遠茶懸物 / 一拂齋 [著]. -- 仙鶴堂鶴屋喜右衛門, 天明6 [1786].

本文庫は文学部教授故水野稔氏の旧蔵書が核となり構成されている。2017年11月、故水野氏ご長女の小池奈都子氏より旧蔵資料全9点（山東京傳の自画賛軸・扇面・短冊類：鑑定価格260万円）のご寄贈があり、受け入れをした。寄贈資料の詳細は以下のとおりである。

- 石場図 [自画賛軸] 1巻
- 隠蓑笠図 [自画賛軸] 1巻
- 遊客図 [自画賛軸] 1巻
- 月と泥亀図 [扇面] (掛軸) 1巻
- 梵鐘図 [扇面] (額装) 1枚
- 巾着図 [扇面] 1本
- 遊客図 [扇面] 1本
- 山東京傳・京山狂歌短冊 掛軸 1巻
- 山東京傳発句短冊 掛軸 1巻

2.9 ケベック文庫選定分科会

2005年度にカナダ・ケベック州政府の助成を受け、2006年度から本学拠出金と合わせて実質的な『ケベック文庫』資料収集が始まった。残念ながら、2010年にケベック州政府からの助成が中止となった。毎年度『ケベック文庫』の予算を付け資料を購入しているが、このほか寄贈図書も受け入れている。本学におけるケベック研究の推進者で長く座長を務められた小畑先生の遺志を継ぎ、現在は管副館長を座長として、『ケベック文庫』の充実を図っていく。2017年度の予算は12万円である。

2.10 日本近代文学文庫選定分科会

6月に分科会を開催し、日本近代文学文庫選書基準及び選書方法を確認した。

2017年度は以下の全8点の資料を購入した。

- 南島譚 / 中島敦著 . -- 今日の問題社, 1942.11. -- (新鋭文学選集 ; 2)

- 虚構の彷徨；ダス・ゲマイネ / 太宰治著 . -- 新潮社 , 1937.6
- オリンポスの果實：外五篇 / 田中英光著 . -- 高山書院 , 1940.12
- 野守草 / 佐藤儀助編 . -- 新聲社 , 1902.10
- 馬酔木 / 根岸短歌会 .
- プールサイド小景 / 庄野潤三著 . -- みすず書房 , 1955.2
- 汽車の罐焚き：小説集 / 中野重治著 . -- 小山書店 , 1940.4
- 不器用な天使 / 堀辰雄著 . -- 改造社 , 1930.7 - (新鋭文学叢書)

2.11 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2017 年度も、継続して著作権者への許諾書発送及び許諾論文のメタデータ PDF データの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物、博士論文である。

主な活動内容

- 運用指針英語版の作成。
- 2017 年 12 月 20 日 筑波大学訪問
- 2018 年 1 月 19 日 JAIRO Cloud 移行相談会参加
- 2018 年 3 月 14 日 JPCOAR 総会参加

学術雑誌に掲載された論文の収録数を増やすために、対象論文のリストアップ・出版社のポリシー調査などを行った。

2.12 図書館広報部会

2017 年度の部会の開催はなかった。

利用案内編集分科会から図書館 HP の改訂について要望が出され、これを受け、部会は開催しなかったが、メール審議により、図書館 HP の改訂を行うことが承認された。実質的な図書館 HP の検討、作業については、2018 年度に行う予定である。

2.13 図書館紀要編集部会

部会を下記のとおり開催した。

- 第 1 回 (7 月 31 日) ① 投稿規程の一部改正について
② 第 22 号の構成について
- 第 2 回 (12 月 5 日) ① 投稿規程の一部改正について
② 「査読要領」の新設及び査読者について
③ 投稿論文の掲載可否について
④ 第 22 号の目次について

『図書の譜』第 22 号を刊行した (A5 版, 216 頁, 2018 年 3 月 10 日刊行, 600 部発行)。特集は、「明治大学図書館の特色あるコレクション」とし、各種特別文庫のほか、研究用基礎資料の紹介も行った。今回も、教員、退職教員、職員などから多くの論文が寄せられた。巻頭言『図書館の当面する課題』(山泉館長), 『ラーニングコモンズとしての大学図書館とレファレンス』(齋藤副館長) と館長・副館長両名が寄稿されている。

2.14 書評コンテスト選考部会

応募要領を 7 月に公開し、10 月 1 日から 31 日まで作品を募集した。この募集に先立ち、9 月 25 日から 29 日にかけて計 8 回の「書評の書き方講座」(講師：伊能秀明図書館総務事務長)を開催し、計 54 名の参加があった。書評作品は 50 編の応募があり、12 月 14 日に選考部会を開催して最優秀賞から佳作まで 12 名の受賞者を選定した。1 月 31 日には和泉図書館ホールで表彰式を行い、各受賞者に賞状と副賞を授与した。表彰式の後受賞者交流会を和泉図書館サロンで行い、交流と共に各受賞者がスピーチを行った。受賞作品は HP に掲載したほか、「第 8 回明治大学図書館書評コンテスト受賞作品集」を刊行して配付した。2 月には中央図書館 1

階エントランスにて受賞作品と受賞対象図書の展示を行い、図書の貸出しを行った。

また、第7回と8回の受賞者の中から4名が、書評新聞『週刊読書人』の「書評キャンパス」欄に2017年度に書評を掲載した。これらの書評はコンテストで発表したものとは別の書評で、コンテストをきっかけに活躍の場を広げることができた。

2.15 生田図書館ギャラリー運営部会

生田図書館ギャラリー運営部会は、生田図書館ギャラリーの計画的な運営を目的とし、生田キャンパスに所属する図書館副館長を部会長とし、理工学部及び農学部図書委員各2名をもって組織されている。

2017年度は3月9日に運営部会を開催し、2018年度ギャラリー展示企画について、応募案件7件、博物館企画1件及び生田図書館企画2件からなる全10件について、展示の開催及び年間展示スケジュールについて承認された。

2.16 図書館活用法運営部会

学部間共通総合講座「図書館活用法」は2000年度に開講し、コーディネーターとタスクフォースの図書館職員で授業運営してきた。2015年度に図書館として組織運営する体制を整備するため、図書館活用法運営部会を設置した。この部会の下に作業グループを置き、各図書館事務室から職員2名が選出されている。

第1回目の部会は、7月25日に開催した。次年度の図書館活用法開講申請に関すること、各回の授業テーマに関すること、今後のスケジュールについて審議した。

第2回目の部会は11月24日に開催し、授業指針、次年度講座計画書（シラバス）作成について審議した。

第3回目の部会は2月20日に開催され、2017年度の振り返りを行い、次年度に向けての課題を確認した。

2.17 閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は、図書館のサービスを改善するために、閲覧担当部署の円滑な運営を目的として、図書館利用規程に関する事項、貸出・蔵書業務に関する事項、レファレンス・マルチメディア業務に関する事項、その他連絡会が必要と認めた事項を審議するものである。

2017年度は中央図書館事務長を委員長とし、中央2名、和泉2名、生田2名、中野1名の各図書館職員計8名で構成された。会議は、5月26日、11月14日、3月6日に開催し、いずれの回もシステム担当者2名がオブザーバとして出席した。そのほか細かい運用の変更などについては随時メールによる審議を行った。

2017年度の主な審議事項は以下のとおりである。

①利用者サービスに関する事項

- ・リバティアカデミー会員の利用変更に伴う運用について、前年度から継続して検討を行い、2019年度からの変更について告知及び広報を行った。
- ・Oh-o!Meijiによる、返却日1日前通知の送信を開始した。
- ・前年度から継続して検討を行っている学外連携サービスの見直しの一環として、杉並区民・世田谷区民の利用変更を検討し、2018年度より実施予定とした。

②運用改善に関する事項

- ・蔵書点検作業の運用変更を行い、作業効率の改善を図った。
- ・専任教員で長期延滞されている資料の特別督促を行った。
- ・その他、「仮学生証」の取扱い、兼任講師の年度更新手続き、「臨時入館証」の取扱い、「貴重書閲覧申請書」の様式変更、臨時連絡便の対応及び次年度実施検討など、運用に関する課題について検討し、改善を図った。

③国際大学松下図書館・情報センターとの相互利用の終了について

- ・学校法人国際大学との系列法人化に関する協定の期間満了による解除に伴い、図書館間の相互利用も2017年度末をもって終了となるため、周知及び広報を行った。

2.18 利用案内編集分科会

2018 年度の利用案内について、下記のとおり刊行した。

2017 年 12 月 7 日に『利用案内編集分科会』を開催し、利用案内（学生用）等の検討を行った。

- ・「利用案内（学生用）」（A5 変形型，28 頁） 残部を有効活用する観点から、今年度の発注を行わないこととした。
- ・「教員用利用案内」（A4，12 頁） 内容修正の上，各館で印刷を行い，新任教員ガイダンス等で配布する。
- ・「文献の探し方」 冊子体での印刷は行わず，内容修正の上，図書館 HP で公開した。
- ・「OPAC ユーザーズガイド」 既に図書館 HP で公開を行っているが，内容の修正を行った。
- ・「図書館開館ミニカレンダー」（四つ折り） 前年度と同じデザインにて作成した。

2.19 『らいぶ』（図書館報）編集分科会

2018 年度号（通算第 24 号・2018 年 3 月発行）を発行した。『らいぶ』は主に新入生向けに発行しているため，手に取りやすいような表紙になっている。2018 年度号は 2017 年度図書館バッグに採用されたデザインを利用した。巻頭の教員からのメッセージには，齋藤副館長が『「知る」ということと図書館』というタイトルで図書館への誘いのメッセージを寄せている。2 ページ以降は，ポータルサービス，明治大学 4 図書館の特徴と館内マップ，各館のイベント・企画やよく読まれた本の紹介，また図書館を上手に利用するための「図書館活用術」など，初めて本学図書館を利用する人を対象にイラストや写真を多く入れて分かりやすい図書館紹介パンフレットとした。A4 版，カラー刷り 11 頁，5,500 部。

2.20 中央学習用図書選書分科会

中央学習用図書選書分科会は，「中央図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき，中央図書館事務長を座長とし，座長が指名した中央図書館事務室及び図書館総務事務室の職員により形成される。本分科会は原則隔週で開催されており，和書 5 社，洋書 3 社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2017 年度は，学習用図書費を圧迫していた大型・高額継続購入図書のキャンセル発議を行い，図書館基礎選定委員会の審議を経て，12 タイトルをキャンセルし 1 タイトルの媒体変更を行った。また，消耗品費の中で 4 割を超える追録について見直しを行い，15 タイトルについてキャンセルを行った。

新たな試みとして，電子ブックについて，9 月 20 日から 11 月 30 日まで「試読サービス」を実施した。試読サービス選書基準を定め，それに合致した 122 タイトルを購入した。また，洋書を中心とした Ebook Central を導入し，2018 年 2 月現在，662 タイトルが利用可能となった。

2.21 教員による生田図書館学習用図書選書分科会

2016 年 6 月 17 日開催の図書委員会において，2003 年 3 月 14 日制定の「明治大学図書館教員による学習用図書選書委員会運営内規」を廃止し，新たに「教員による生田図書館学習用図書選書分科会運営内規」を制定し，同年 4 月 1 日より施行している。同内規に基づき，理工学部，農学部の各学科等より選書委員を選出し，2017 年度については，新任の選書委員（理工学部，農学部各 1 名）に個別説明会（ガイダンス）を実施した。

昨年同様に夏休みの読書支援策として「緑陰読書～教員がすすめる本」（以下，「緑陰読書」）の企画を実施（2016 年度開催の当分科会運営会議で，毎年夏の行事として継続実施することを確認）した。「緑陰読書」推薦用紙もしくは HP からのダウンロードにより本を集約し，夏期休暇期間中，新着図書配架棚の一角に教員ごとに配架した。

専任教員による見計らい選書は生田図書館のみで実施されているが，毎回，選書委員に見計らい期間のお知らせ（2 週間ごと）と共に見計らい図書のリストを添付しメールを出している。授業の合間に選書室に足を運ばれる選書委員も多く，大いに学習用選書に協力いただいている。

2.22 オンラインサービス WG

オンラインサービスの運用は，運営主体である大学図書館支援機構（IAAL）のサービス提供終了（予告）

にともない、当該サービスの提供停止を下記のとおり周知した。

オンラインナレッジのニュース機能は、2018年1月からウェブリリース2を利用する運用に切り替えた。「読書ノート・ユーザーレビュー」機能は、IAALによる制御の都合から2018年3月末日でサービスを停止した。参考質問・要望等のオンラインレファレンス機能は、回答準備期間を設けるため受付を2018年2月末日までとし、代替サービスの在り方については、他の方策の採用またはシステム開発を行うか検討中である。

2.23 電子資料契約検討 WG

2017年度は、Springer社電子ジャーナルパッケージ契約見直しを中心に、会議に加えメールでの連絡調整により検討・準備作業を進め、意向調査結果分析や購読タイトル案の策定、各キャンパス説明会等WGメンバーで分担して行った。WG開催日と議題は下記のとおりである。

- 第1回（6月1日）： 2017年度の電子資料契約方針について、Springerパッケージ中止方法について、Springerパッケージ以外の契約見直しについて、電子資料契約検討WGの今後の活動について
- 第2回（12月14日）： Elsevierトランザクションの利用方法見直しについて、ILLの利用方法見直しについて、Elsevierの購読タイトル（2018年度）選定について、Wiley購読タイトル（2019年）選定について、今後の電子資料見直しの方針について
- 第3回（2018年2月1日）： 2018年度研究用新聞・雑誌及び電子資料の新規募集について、ILLの利用方法見直しについて、Elsevierの購読タイトル（2018年度）について、Wileyの購読タイトル（2019年）について、新聞・雑誌バックナンバーの購入希望受付及び選定について

2.24 リテラシーイベント WG

4月・10月の新入生向けクイズラリー、12月の英語講座、9月のe-book利用推進イベントを複数キャンパスで実施し、共通のポスターを使用し企画アイデアを共有して行った。また2018年度のクイズラリー景品用ブックカバー作成を、新入生のいる和泉・生田・中野キャンパス共同で進めた。

このWGで担当している学生ボランティアグループMeiji Book Avenueは、4月に新メンバーを加え、引き続きビブリオバトル、読書会を実施した。またこれまでのビブリオバトル実施活動が評価され、ビブリオバトル普及委員会によるBibliobattle of the Year特別賞を6月に受賞し、これについての報告のために7月に杉並区長を表敬訪問した。また専修大学、日大文理学部、法政大学（多摩）学生との交流を行ったほか、読書会に他大学の学生も参加した。活動を広く知らせる広報紙Meiji Book Avenue magazineを4、7、11月の3回発行し大学近隣の公共図書館でも配付した。また、広報の際に使うロゴを作成しポスターなどで使用を始めた。

2.25 中野図書館基本コンセプト検討 WG

2017年1月25日付「キャンパス整備に関する方針について」(学長)、中発第6号2017年1月27日「中野キャンパス第2期整備計画の構想について」(中野キャンパス運営委員会委員長から学長)等を受けて、第2期整備計画で中野図書館が拡充するべき機能（要求仕様）について検討を進めるため、中野図書館基本コンセプト検討ワーキンググループが設置された（2017年度第1回図書委員会承認）。3回のWGを開催し＜第1回（7月3日）、第2回（12月21日）、第3回（2018年3月16日）＞、中野図書館基本コンセプト案を作成した。